

スクール Memory



卒業式で三綱領を唱和する卒業生（3月1日）
佐々友房が揮毫（きごう）した三綱領（学校要覧から）



明治二十六年八月上院書于東京
佐々友房

BUNSEM-GYMNASIUM



昨年10月にドイツを訪問した生徒ら（済々黙高提供）

このページに掲載した写真を実費でお分けします（提供写真是除く）。問い合わせは☎092-715-5955か、最寄りの販売店へ。

（田上賢祐）

環境先進国 の ドイツで研修 SGHに指定で

済々黙高は2014年3月、文部科学省が創設した「スーパーグローバルハイ

スクール（SGH）に指定できるベースがないと、振幅が大きく、時代を乗り切つていけない。そういう点で、三綱領自体が一つのパラスト（重し）になるのではないか。三綱領は今も生きている」と語った。

できるベースがないと、振幅が大きく、時代を乗り切つていけない。そういう点で、三綱領自体が一つのパラスト（重し）になるのではないか。三綱領は今も生きている」と語った。

スクール（SGH）の指定校に選ばれた。期間は18年度までの5年間。2年目の昨年度は、10月に7日間、環境先進国とされる日本で研修をした。

各学年にSGHクラスを設置し、開発と環境保全を主題にした課題研究活動と、コミュニケーション能力の養成に取り組んでいる。昨年12月には中間報告会が開かれ、ドイツ研修についても報告された。

次回は県立阿蘇中央高校

研修には2年生33人が参加し、環境関連施設を視察したり、大学を訪問したりした。有働百花さん（17）は

「まず身の回りの環境を好きになることが重要で、それできることが自主的、主体的に行動していくと思った」などと感想をつづった。

県立済々黙高校

「正倫理 明大義（倫理を正し 大義を明らかにする）」。3月1日、済々黙高体育館で行われた卒業式。卒業生は校歌齊唱の前に、胸をそらすようにして大きな声で「三綱領」を唱和した。

三綱領は、1882年（明治15年）の創立とともに制定された建学の精神だ。「重廉恥 振元氣（廉恥を重んじ 元氣を振るう）」「磨知進文明（知識を磨き 知識 進文明（知識を磨き））

創立の翌年に改正された「濟濟黙規則」が熊本市内で所蔵されていることが最近分かり、3月28日、学校に寄贈したいという申し出があつたという。規則の第

学校開設者の一人、佐々友房が三綱領をしたためた扁額が校長室に掲げられている。「学校の宝物です」と、川上修治校長（59）は誇らしげに紹介した。

一章通則の最初に三綱領が

うたわれ、「遵奉しない者は入校を許さず」と明記されている。

三綱領は各教室に掲示され、生徒たちは始業式や終業式などの節目に、応援団のリードで唱和する。8日の入学式でも、川上校長が三綱領に触れ、精神は受け継がれていく。

「三綱領が人生の指針になっている」と話す卒業生も多い。同窓会幹事長で、高校時代は応援団長だった今井政文さん（60）もその一人。唱和を先導するのは「名譽なことだった」と振り返る。

姜尚中・県立劇場館長（65）も卒業生。三綱領が定められた明治時代を、数々の改革や刷新が行われた反面、伝統に回帰する動きもあった時期ととらえ、現代と重ね合わせる。

グローバル化や技術革新などで、無限に変化する現代。「一方で、自分が回帰する現

卒業後も人生の指針に

文明を進む」と続く。



学校データ

生徒数1230人。
1882年（明治15年）、佐々友房や飯田熊太らが三綱領の「三育主義」を掲げて創設した。96年、山鹿、八代、天草の3分校が設立され、それぞれ鹿本、八代、天草高につながっている。1900年に分割されて第一済々黙、第二済々黙となり、県立に移管。翌年、それぞれ県立中学済々黙、県立熊本中学校（現熊本高）と改称した。48年、県立済々黙高となった。進学校として知られるが、春夏11回、甲子園に出場している野球部（優勝1回）をはじめ、部活動も盛ん。熊本市中央区黒髪2の22の1。



建学の精神「三綱領」